

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	中間評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1)教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。 (2)教職員間の更なるコンプライアンス意識の向上に努める。 (3)広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりの広報を積極的に行う。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ②教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成 ②教職員のコンプライアンス意識の徹底 ③学科再編、学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信の推進	①-1 各種教職員研修の実施 【各学期3回以上】 ①-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教員組織としての意思統一を図る。 【セキュリティ研修：年3回以上】	①-1 教職員研修等 【1学期：8回、夏休み2回、2学期5回、3学期4回】 ①-2 定期的な情報セキュリティに関する啓発並びに教職員の意識向を図る。 【情報セキュリティ研修：現在 6回実施】	A	B (所見) ・学科再編に向けた研修の回数が増えたので、教職員間の相互連携及び協力体制が構築されつつある。 ・効率的な業務の執行並びに精選を推進するとともに情報セキュリティに關しての仕分け作業が徹底できた。 ・教職員間の連携により担当者を中心とする地域連携プログラムを計画的に実践していくことでキャリア教育の推進につながることができた。 ・業務の見直しとともに教職員間の意思疎通を図ることによって風通しの良い職場環境づくりを推進することができた。 ・学校行事や様々な取組をHPへのアップや神山町のHPとリンクすることで教育内容の広報に効果があった。 ・体験入学での中学生の満足度は高く回数も4回実施したので進学も望みにも大きく反映された。	I 学校運営の中で、地域の人と一緒に取組むは素晴らしい。高校生が地域の人とともに地域活性化を行っている学校は他にはない。「地域で学び、地域と育つ神山校」を中心に据えて組織編成をするとよいのではないかと。 ① 本年度は来年度の学科再編に向けての職員研修を6回持ち、教育内容や学校運営についても協議を重ねている。文部科学省の地域連携の事業にも応募している。 II 地元の中学生に進学してもらえようように広報活動に取り組んでもらいたい。 ① 神山中学校での3年生対象の説明会を7月に行った。 ② 本年度の中学生体験入学の神山中学生は例年より多かっただけで、来年度も広報活動を継続していく。東京・大阪での説明会、板野郡の中学校にも説明に行った。 ○ 各種教職員研修の実施は、目的を明確にした上で、教職員の資質向上並びに組織としての共通理解を図る機会としての活用を進める。 ○ 情報セキュリティの構築を進めていく中で、教職員全体の資質向上を目指した研修を推進する必要がある。 ○ 積極的な地域連携活動を進める上で、研修による教職員間の共通理解を図る効果があったので、来年度も継続する。引き続き、生徒の目的理解と実践後の振り返り・まとめを徹底させる必要がある。 ○ ホームページの運営に関して、神山町のHPとリンクして注目されるようになったので、来年度も地域連携の活動等より詳細に伝える中で、学校の広報に繋げたい。 ○ 中学生体験入学の希望者も多く、その後の学校見学も多かったことから、オープンスクールの開催するなど新しい方法を試みる。
		②-1 風通しの良い職場環境度合いを図るアンケートの実施 【充実度：90%以上】 ②-2 コンプライアンス意識の向上割合 【向上率：85%以上】	②-1 共通理解・協力体制の充実を含む教職員間の団結 ②-2 常に教育公務員としての自覚を継続する。	B		
		③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数の増加 【年間1万件以上】 ③-2 体験入学における中学生の満足度の向上 (保護者を含む)	③-1 地域連携・学校活動報告の充実 【ホームページ更新回数：22回】 ③-2 中学生体験入学参加者 7/23 28名 12/15・16 2名 8/10・11 2名 2月中 5名 11/17・18 4名 (昨年より増) 【中学生満足度：96.7%(6.0%増)】 【参加理由：自分の意思39.2%、保護者の勧め14.2%、先生の勧め46.4%】	A		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 教職員の資質向上のための研修会を実施する。 ①-2 コンピュータ・メインの共有フォルダを活用し、校務の効率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。	①-1 継続的な研修の実施とともに学科再編を考える研修を5回開催した。 ①-2 コンピュータの分離によるドメイン内の整理を実施し、データ保存の区分けを明確化した。 ①-3 「チーム学校」として組織力を活かした指導体制づくりが推進できた。			
		②-1 時期をとらえ、継続的な研修を実施することでコンプライアンス意識の徹底を図る。 ②-2 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止の徹底を図る。	②-1 風通しの良い職場環境づくりを推進する中でその都度、啓発・確認を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。 ②-2 昨年度から継続して、情報資産の持出・持込チェックやクリアデスク・クリアスクリーンの徹底が推進できた。			
		③-1 保護者や地域に、次年度からの学科再編の内容や本校の特色、学習活動などを積極的かつリアルタイムに情報発信できるようホームページの更新・充実を図る。 ③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開設実施するとともに、次年度からの教育課程や学習内容について説明する。	③-1 更新数は昨年度に比べ大幅に増加し、学科再編に関する広報や、生徒の取組を取り上げ、内容や記録写真を豊富に使いよりわかりやすくした。また、神山町のHPとリンクし、県外募集にも積極的に広報した。 ③-2 特色ある体験授業の中で学習内容等をよく理解することができた。 [生徒理解度：95.2%] (保護者：13名、引率教員：12名)			

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	中間評価			
2 確かな学力の育成	(全体レベル) (1)基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 (2)個性の伸張を図り、専門的な知識や技術を習得させる中でスペシャリストの育成を図る。 (下位組織レベル) ①基本的な学習態度の向上に向けた取り組み ②図書室の有効的な活用 ③各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上	評価指標 ①朝の読書週間の実施 【年間10日、延時間90分】 ②図書室の有効利用 【図書室だよりの発行3回】 【読み聞かせ会の実施3回】 ③資格取得 【造園技能検定3級 合格率75%】 【園芸装飾検定3級 合格率75%】 【漢字検定3級合格 4名】 【英語検定準2級合格 2名】	評価指標の達成度 ①朝の読書週間の実施 【10日、延時間100分 達成率100%】 ②図書室の有効利用 【図書室だよりの発行3回】 【読み聞かせ会の実施3回】 ③資格取得 【造園技能検定3級 合格率15%】 【園芸装飾検定3級 合格率45%】 【漢字検定3級合格 0名】 【英語検定準2級合格 0名】	評定 A A E	総合評価 B	I 学力評価の仕方をどのようにしていくべきか。その個々の評価の仕方のもっと人間力としかけを判断すべきではないか。学力も大事だが、コミュニケーション能力や思いやりなど人間性や健康などが卒業後重要になってくるので、重点課題2と3をまとめてもよいのではないか。 ① 評価の仕方を再度見直し、総合的に人物評価できるように検討したい。 II) 数値目標を下げたらどうか。生徒の実態に合っていないようだ。専門教育と資格取得の関連を生徒の意欲にどうつなげていくかが大切である。 ① 進路指導の部分から目的意識の確立が図れるような方法を考えていきたい。指導の仕方も工夫する必要がある。
		活動計画 ①-1 朝のホームルームの時間を活用し、1回10分程度の読書時間を設ける。 ①-2 この時間に読む本は、必ず学校の図書室で借りた本とする。 ②-1 購入図書案内を定期的に行うなど、図書館だよりの発行により読書への意識づけに努める。 ②-2 図書委員会を中心として、学期に1回程度の読み聞かせを行うなかで読書活動を推進する。 ③-1 検定試験では、合格率の向上を目指し、教科指導や時間外授業を活用する。 ③-2 担当教員を配置し、合格率の向上に努める。 ③-3 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させることにより、資格取得に取り組む動機付けを行う。	活動計画の実施状況 ①-1 6/11(月)～6/15(金)実施 11/26(月)～11/20(金)実施 ①-2 この時間に読む本は、必ず学校の図書室で借りた本とした。 ②-1 第1学期に発刊 第2学期に発刊 第3学期に発刊 ②-2 11月12,13,14日に実施 ③-1 検定試験では、教科指導や時間外授業を活用した。 ③-2 担当教員を配置し、合格率の向上に努めた。 ③-3 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させる話をし、資格取得に取り組む動機付けを行った。	(所見) ・図書室便りの発刊並びに絵本の読み聞かせについては、計画通りに実施できた。今年度から新たに朝の読書週間に取組んだ。読書に取り組む姿勢には個人差が見られたものの、授業に向かう動機付けとして活用できた。 ・資格試験の合格率に関しては、例年と比較して大幅に低下した。		

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	中間評価			
3 安心・安全の観点に立った学校教育の推進	(全体レベル) (1) 基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 (2) 思いやりの心と人権を尊重する態度を育て、いじめを防止する。 (3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援や指導を行う。 (下位組織レベル) ① 基本的な生活習慣の確立 ② よりよく生きるための資質を育成(道徳教育) ③ 職員間での特別支援体制の確立及び関係機関との連携推進	評価指標 ①-1 頭髪・服装検査の実施並びに違反者への改善指導の実施 【違反者率：5%未満】 ①-2 全校集会の実施 【各学期 3回以上】 ①-3 スマホ、携帯電話の使用並びに公共機関利用におけるマナーアップ指導の実施 【年間 3回以上】 ①-4 神農クラブによる挨拶運動の実施 【各学期に1回以上】	評価指標の達成度 ①-1 毎月1回以上の実施済み、違反者への改善指導は継続中 【違反者率：15%】 ①-2 全校集会は計画通りに実施され状況に応じて対応できている。 ①-3 携帯電話・スマホのマナーアップ向上のため、防犯教室の開催と全校集会で対応している。 【1学期：1回実施】 ①-4 神農クラブによる挨拶運動 【年間：2回実施】	総合評価 B (所見) ・学校生活の現状は、落ち着いており、重大な生徒指導事案は発生していない。しかし、軽微な校則違反や服装違反は発生している。また、自分の感情をうまくコントロールできず、公共物損壊事案も発生した。全教職員で協力し生徒理解に努め、安心・安全な学校生活への支援や過ごしやすい学校環境を整えたい。 ・7月に、教職員対象の特別支援教育研修会を行い、支援が必要な生徒との関わり方について学んだ。 ・1年生の中に、不登校から転学へと進路変更をするようになった生徒がおり、もう少し教職員全体が生徒と関わり、教育相談な支援が必要だった。	I) 生徒の生きる力の育成に重点をおき、「生きる力を育む」ためにはどうすればよいか、細分化して考えてまとめていった方がよいのではないか。 ① 指摘のとおり来年度の重点目標を見直し、評価指標並びに活動計画を検討したい。	○身だしなみの現状は、ほとんどの生徒が学校指定の服装で登校し、学校生活を過ごしているが、一部の生徒に違反者が認められる。スカート丈を短くした着こなしや、装飾品をつけている生徒も確認できる。その都度指導し、指導には素直に応じるが時間が経過すると元の状態にもどってしまうことがある。全教職員で根気強く指導し、改善させたい。 ○スマホなどのトラブルは年度当初の防犯教室の開催や継続した指導の結果、問題事案はほとんど発生していないが、SNSを使っての不適切な投稿や誤解を招く写真等の添付が確認できる。利用するときのマナーを理解させ、指導を充実させたい。 ・次年度も特別支援教育や教育相談に関する研修を実施したい。必要があれば、スクールカウンセラーの制度も取り入れたい。
		②-1 人権ホームルーム活動の実施 【年間 5回以上】 ②-2 教職員人権研修の実施 【年間 3回以上】	②-1 5回実施 ②-2 3回実施	A		
		③-1 担任、特別支援教育コーディネータを中心に教職員が協力して、教育相談体制を整える。 ③-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上を図る。 【理解度・満足度 90%以上】	②-1 現在のところ、別室登校は1名いるが、不登校傾向にある生徒は他にもいる現状である。生徒理解に努め相談活動を充実させたい。 ②-2 昨年に引き続き、教職員対象に特別支援教育研修を実施した。	B		
		活動計画 ①-1 毎月20日の登校指導を実施し、生徒の指導に役立てる。 ①-2 状況に応じて全校集会を実施し、全職員で支援、指導を行う。 ②-1 生徒の実態に即した内容を扱うと共に、事例検討等の体験活動を取り入れる。 ②-2 研修会等で得た知識を校内で他の教職員に還元する。 ③-1 教育相談に使える場所を作り、生徒が気軽に相談できるような環境を整える。 ③-2 研修会で学んだことをもとに、教職員間で共通理解を図って支援が必要な生徒に対応する。	活動計画の実施状況 ①-1 毎月20日の計画で校門指導を実施し、生徒指導に役立てることができた。 ①-2 全職員が一丸となった支援・指導に取り組むことができ、さらに状況に応じた全校集会も実施できている。 ②-1 コミュニケーションが苦手な生徒や感情のコントロールが苦手な生徒の指導支援に役立てるため専門家を招いて研修会を実施した。 ②-2 各種の研修会に希望職員を募り、積極的に参加しており、校内での還元もできている。 ③-1 「教育相談室」及び「キャリアアップ教室」を有効に活用して相談活動が実施できている。 ③-2 支援が必要な生徒に対しては、教職員全体で協力して対応するつもりでいる。			

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	中間評価		
4 防災・環境教育の推進	(全体レベル) (1)安全な生活空間づくり・防災意識の高揚を図る。 (2)学校版環境ISO認定校として実践を推進する。 (3)地域の環境の美化並びに保全に貢献する活動。 (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ②節電・節水・ゴミの分別の徹底 ②校内の美化 ②環境調査の実施 ③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動及び環境保護活の推進	評価指標 ①-1 避難消火訓練の実施 【地元消防署との合同訓練 1回以上】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【年間 3回以上】 ①-3 防災クラブの活動 【地域連携による活動1回以上】 ①-4 高校生の防災士の育成 【防災士合格者 1名以上】	評価指標の達成度 ①-1 避難消火訓練の実施 【12月に実施】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【7月・9月・11月に実施】 ①-3 防災クラブの活動 【防災クラブによる出前授業を神領小学校で実施・4K映画祭でワークショップを実施】 ①-4 高校生の防災士の育成 【防災士合格者 4名】	I) 防災士は、地域の高齢者を守るための役割を担って欲しい。 ① 高校生防災士の資格取得者も年々、増加傾向にあり、防災に対する意識付けも高まってきている。 4K映画祭での炊き出しや広野小学校での出前授業などを行っており、地域に高校生が出て活動している。 ・防災クラブを「神農クラブ」のメンバーで立ち上げ、活動をしている。今年度も「守るぞ！地域防災推進事業」を継続しており、防災研修にも積極的に参加し、防災意識を高めている。また、本年度は高校生防災士に4名が合格し、資格試験にも挑戦している。 ・防災クラブ出前授業を神領小学校で実施し、地域と連携した活動に取り組むことができた。	○積極的な防災活動を通じて、地域で活動できる生徒の育成に力を入れたい。 ○防災士を中心とした防災クラブの活動を活性化させていきたい。 ○地域と連携した防災活動を実施していきたい。 ○教室美化コンテストを継続し、生徒の環境美化に対する意識を高めていきたい。
		②-1 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【年間 3回以上】 ②-2 教室美化コンテストを実施 【各学期 3回以上】 ②-3 鮎喰川の水生生物調査を実施 【年間 1回以上】	②-1 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【計画通り実施】 ②-2 教室美化コンテストを実施 【1学期 5回実施】 ②-3 鮎喰川の水生生物調査を実施 【実施なし】		
		③-1 ゴミゼロキャンペーンやアドプト事業の実施 【各クラス年間 2回以上】 ③-2 バス停清掃の実施 【各クラス年間 2回以上】 ③-3 希少植物の保護活動 【年間 2回以上】	③-1 ゴミゼロキャンペーンやアドプト事業の実施 【計画通り実施】 ③-2 バス停清掃の実施 【計画通り実施】 ③-3 希少植物の保護活動 【計画通り実施】		
		活動計画 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第、早急に改善する。 ①-3 地域・防災クラブが連携し炊きだし体験を実施する。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施する。 ②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシを掲示、節電に心がける。 ②-2 校内教室美化コンテストを実施し、教室環境を整える。 ③ 希少植物の保護活動の充実を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施している。 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第、早急に改善している。 ①-3 防災体験ワークショップを積極的に実施した。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施した。エピペン使用の教職員研修の実施。 ②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシを掲示し、節電に心がけている。 ②-2 校内教室美化コンテストを実施し、教室環境を整えている。 ③ 希少植物の保護活動を積極的に実施している。		

【備考】評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方法		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	中間評価	学校関係者の意見			
		評価指標 ①-1 インターンシップ体験活動を行う。【一学年、1回以上】 【二学年、1回以上】 ①-2 入学時から自分の進路に関する目的意識を持たせる。 【各学期に1回個別面談実施】 ②-1 進路説明会を各学年で適期に実施する。【各学年 1回以上】 ②-2 オープンスクールや企業に関する情報を生徒に周知する。 【オープンスクール参加率：90%以上】 ②-3 個別指導の徹底や出題問題の提供などを積極的に行う。 【過去問等の情報提供：100%】 ③-1 個人面談・三者面談を効果的に実施する。 【面談実施率：100%】 ③-2 会社訪問や学校説明会への参加を積極的に実施する。 【希望企業への訪問：5回以上】 ④ 様々な社会問題に関して、主体的に関わる意識を高める。 【「様々な社会問題に主体的に考える意識が高まった」と回答した生徒75%以上】	評価指標の達成度 ①-1 【一学年10月にしごと体験を1回実施】 【二学年、夏休み5名が1回実施】 ①-2 学期始めの担任での個人面談時に、進路希望調査を行っている。 ②-1 進路説明会については、1,3年生はすでに実施。2年生の2回目の説明会を3月15日に実施予定。 ②-2 オープンスクールへの参加率は100%である。また、生徒により同一校に複数回参加している。 ②-3 過去問などの提供率は100%である。春先にすべて提供している。 ③-1 進路に関しての面談を3年生全員に実施した。 ③-2 企業訪問や学校説明会ともに当初の目標を達成している。 ④ 各教科での主権者意識を高める取り組み(集団意志決定など)、主権者教育講演会や生徒会役員の模擬投票などを実施。 【意識が高まったと回答：86%】	評定 B A B A	総合評価 B (所 見) ・3年生の進路については現在進行中である。昨年度の2倍以上の就職希望があり、まだ未定の者がいるが粘り強く指導を続けていきたい。決定後は、定着に向けた指導や社会人としてのマナーなどを中心に指導していきたいと考えている。 ・ここ数年、就職後の早期退職が減少した。本校独自のキャリア教育を通じて培ってきた職業観が定着しつつあるのかと考えている。	I) 専門講師には是非地元の人材を活用して欲しい。 ① コンニャク作りは里山の会の人をお願いした。豆腐マイスターは資格を持っている方をお願いしたので、地元にはいなかった。石積み修復は上勝町の方に毎年お願いしている。 II) 就職で早期退職者が少なくなっているのは素晴らしい。 ① 2年生の3学期末に保護者同伴の説明会を開催している。進路説明会の効果的な時期も来年は検討したい。 III) 大学進学や就職に向けての生徒個々への指導が必要ではないか。 ① 習熟度別の指導やカリキュラムの変更など、生徒の学力や意欲によって指導方法を検討していく。	○進学希望者については積極的なオープンスクールへの参加が定着してきた。ただ、進学のための資金の確保など家庭が抱える問題は相変わらずである。 ○就職希望者については、今年度は就職希望が多く、求人数も増加をしているとはいえず、生徒の希望する職種の斡旋が十分ではなかったため、さらに企業の新規開拓に努めていきたい。 ○進路決定に向けての最大の課題は本人・保護者の進路に対する意欲を高めること、それにはどのようなことが家庭で必要かを認識して実践するかである。学校における教育活動では限界があり、懸命な連携を図っているが根本的な問題が解決していないケースが多く、成果がなかなか上がらない。
5 社会的自立と進路実現の支援	(全体レベル) (1)インターンシップを取り入れ、望ましい職業観・勤労観の育成を図るとともに自らの将来設計の構築に努める。 (2)進路情報の的確な提供による進路指導の充実を図る。 (3)関係機関等との連携による進路先の確保並びに指導体制の充実に努める。 (4)主権者教育を推進し、社会への参画を促す。 (下位組織レベル) ①望ましい勤労観・職業観の育成のためガイダンス・進路相談等の充実 ②生徒理解を深め個に応じたき ③個々の希望に応じた進路開拓の推進 ④模擬投票などの体験学習、地域や関係機関と連携した取り組みを推進する。	活動計画 ① 教職員組織の連携を強化する。 ②-1 進路説明会や三者面談を適宜実施する。 ②-2 進路情報の提供を徹底する。 ②-3 補習体制を充実させる。 ③-1 個人・三者面談による意思確認を積極的に行う。 ③-2 職場見学やインターンシップについても積極的に取り入れる。またハローワークや関係機関と連携してより生徒の要請や適性に応じた進路開拓を実施する。 ④ 主権者教育に関する学校行事を積極的に実施する。 【年間で3回以上】	活動計画の実施状況 ① 教職員間での情報の共有を図り、連携の強化を心がけている。 ②-1 2年生は11月、1年生は2月に実施。2年生の2回目は3学期に実施予定である。 ②-2 適宜実施した。 ②-3 全体補習や個別補習を実施した。 ③-1 個人面談、また必要に応じて三者面談を実施し、意思確認を行った。 ③-2 1,2年生は神山創造学において、インターンシップを行った。また、3年生は受験前の職場見学に積極的に参加した。進路開拓に関しても、ハローワーク等と連携し、協力して進めてきた。 ④ 2学期に大学から講師を招き、主権者教育講演会を全校生徒および教員に実施。また、生徒会役員選挙にて模擬投票を実施。				

